

医学系大学院博士課程院生への図書館における 論文執筆支援

三原 由美子

順天堂大学 本郷・お茶の水キャンパス 学術メディアセンター

I. 背景と目的

業務のなかで、医学系大学院博士課程院生（以下、博士課程院生）の問合せに応じるうち、博士課程院生の論文執筆における課題に興味を持ったことが、本研究のきっかけである。博士課程院生が抱える論文執筆に関わる課題や問題点の実態を明らかにし、図書館による支援のあり方を検討することを目的とした。事例として順天堂大学を取り上げた。

II. 研究方法

論文執筆時における課題の実態と、図書館に希望する支援を尋ねる質問紙調査を、2021年度在籍の博士課程院生全 656 名を対象に実施した。さらに、質問紙調査結果の内容を具体的に尋ねるため、半構造化インタビュー調査を 10 名に実施した。

III. 結果と考察

質問紙調査を全 656 名対象に実施した結果、74 名から回答を得た。回答率は 11.3%であった。研究分野は、内科系（45.9%）が多く、基礎医学系（31.1%）、外科系（23.0%）と続いた。先行研究調査に困難がある者は 51%あり、詳しく利用法を知りたいデータベースには 89%が PubMed を挙げていた。図書館に望む支援は、最多が講習会開催で、その内容は論文執筆に役立つデータベースの使い方やアクセプトされる論文の書き方であった。

質問紙調査結果の内容を具体的に尋ねるため、半構造化インタビュー調査を 10 名に実施した。その結果、調査対象者が抱える課題として 7 つの類型を見出した。具体的には、①網羅的な先行研究調査への不安、②課題を相談できる指導教員との信頼関係が構築できている、③指導教員との信頼関係に不安がある、④論文の構成や英語表現という課題解決対策の体得への希求、⑤査読つき雑誌に受理される要素を把握しながら実際に論文執筆に反映させることの難しさ、⑥投稿先選択についての知識が充分でない、⑦引用索引データベースが使いこなせないであった。図書館に望む支援は、「論文を査読誌に通すのに必要なあらゆる情報の提供」、「研究テーマに則したデータベース検索法の講習会開催」であった。

論文を査読誌に通すのに必要なあらゆる情報には、「学位論文執筆に必要な情報を集め、学内で一括に集めて提示すること」への期待も含まれると考える。これには 2 つの側面があり、1 つは支援情報の在りかを一括し集約すること、もう 1 つは見えるかたちで情報を発信する必要があることといえる。さらに、望ましい講習会のあり方を検討する事例として、オーダーメイド講習会を取り上げた。事前の聞き取り調査を詳細に行い、実践演習を組み込んだ結果、異なる研究分野においても活用できる可能性が見込まれた。論文執筆支援を継続するためのあり方の一端が明らかになったと考えられる。